

# 第1回篠山市総合教育会議 議事録

## 1. 日 時

平成30年8月1日(水) 13時30分～15時50分

## 2. 場 所

市役所第2庁舎3階 2-301 302会議室

## 3. 会議に出席した構成員

市 長 酒井 隆明  
教育委員会  
教 育 長 前川 修哉  
教育委員 酒井 克典  
教育委員 中村 貴子  
教育委員 垣内 敬造  
教育委員 井上 友香

## 4. 事務局出席者(教育委員会事務局)

部 長 芦田 茂  
次 長 酒井 宏  
教育総務課 課長 小林 康弘  
学校教育課 課長 尾松 直樹  
こども未来課 課長 前中 齊  
社会教育課 課長 樋口 裕昭  
文化財課 課長 村上 由樹  
東部学校給食センター 所長 畑 哲也  
西部学校給食センター 所長 齋藤 昭  
中央図書館 館長 赤井 毅彦  
たんば田園交響ホール 館長 小林 純一  
地域コミュニティ課 課長 谷掛 昭二  
総 務 課 課長 中筋 有香  
農都環境課 課長 押田 健一  
人権推進課 課長補佐 団野 顕一  
教育総務課 係長 田中 真紀子  
教育総務課 主事 河野 元秀

5. 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	1 開会
酒井市長	2 報告・協議事項 (1) 篠山市教育大綱の進捗状況について説明を求める。
小林課長	《資料に基づき説明》
酒井市長	まず、ふるさと教育の「1. ふるさと教育（1）篠山ほどよいところはない」について、教育委員会の意見を聞かせて欲しい。
前川教育長	小学校については、地域全体での学びが子どもだけでなく、地域の方もふるさとの良さを再確認できる良い機会となっている。篠山小学校では、全学年で地域の人が外部講師として関わるカリキュラムが出来上がっている。子ども達がふるさとを誇りに思えるような取り組みがなされている。 中学校では、生徒がボランティアとして地域参加をしている。ボランティアとして地域参加することは、中学生という発達状況から考えるとふさわしく、評価できるものである。
酒井市長	教育大綱は全体的に進捗しているのか。
前川教育長	全体を通して、意識は高くなってきているが、具体的に成果がでていないものとそうでないもので差はある。
垣内委員	市内高校との連携で、課題があるように思う。市教委で、中学生が市内高校への進学を希望するような取り組みをしているが、市内高校への進学者数をさらに増やすために新規事業に取り組む必要性を感じる。市内高校出身で市内企業就職者による中学生への講演などの回数を増やし実施すべきである。 参考までに鳳鳴高校学校評議員会の中では、スクールバスを運行する案、少人数のクラス編成などの案が提案された。
酒井市長	29年度の市内中学卒業者数と市内高校進学者数を教えて欲しい。 また、市内中学生への市内高校の説明会はいつ実施したのかも教えて欲しい。
前川教育長	対象は中学2年生で、29年度は2月に実施した。今年度は12月に実施予定である。
尾松課長	29年度の市内高校進学者数は237名で全体の72.5%であった。28年度も72.5%、27年度は66%であった。
中村委員	キャリア教育の一環で実施した事業の中に説明会が含まれていたが、鳳鳴高校出身で元かるた名人の岸田氏の講演が特に良かったという中学生の声を聞いた。この事業に参加した生徒達は、市内高校への受験希望が多いとも聞いている。この事業に関しては、大変効果があったと思う。
酒井委員	キャリア教育は成果が出ているように感じるが、地域行事、ボランティ

	<p>アに参加させ、早くから地域の一員であることを意識させる取り組みがもう少し必要に感じる。また、そういったことに主体的に取り組めるような環境づくりも進めていかなければならない。</p>
<p>井上委員 中筋課長</p>	<p>篠山市のホームページに市内高校の情報を載せることはできないのか。 市内高校の取り組み等については、出来る限り情報発信をしている。今後も情報発信を続けていきたい。</p>
<p>井上委員 酒井市長</p>	<p>目につきやすいところにもっと情報を載せてほしい。 ホームページ、広報等で市内高校の情報を発信していく必要がある。市内企業と同様で、就職希望者に市内企業が知られていない現状がある。広報活動に力を入れていく必要がある。</p>
<p>中村委員</p>	<p>コミュニティスクールについて、小、中学校で活動の連携がとれていないこと、地域によって取り組みの格差があることに課題を感じる。西紀地区に関しては小、中学校間での連携がとれており良い状況にあると感じる。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>子ども達や学校は本当に頑張っており、学力が向上しているように感じる。しかし、昨年の県総合教育会議では、県知事から丹波地域の学力について指摘があった。学力向上については、学校現場だけでは、解決することは難しい。家庭や地域、社会教育が連携していくことが今後の課題であると感じる。 実際に篠山市の学力は向上している。市内高校進学と重複した話題となるが、アピール不足のように感じる。子ども達や学校の頑張りが目に見える形で評価されるべきである。</p>
<p>酒井市長 尾松課長</p>	<p>小学校の英語教育について状況を教えて欲しい。 外国語の授業力向上のために、外国語が堪能な先生を中心に外国語活動推進グループを組織し、研修を重ねている。また、外国語教育のモデルプラン、カリキュラム案を作成し、外国語教育の仕組みづくりを行っている。すべての小学校教員に対して、研修に参加するよう呼びかけを行っており、スムーズに 32 年度からの外国語の教科化に対応できるよう取り組んでいる。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>篠山の食を活かした学校給食について、地元食材の活用率に拘らず、子ども達が授業で育てた野菜を使用するなど、中身に拘った学校給食にして欲しい。そうすると、子ども達によりプラスになると考える。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>次に (2) 子育て支援について子ども未来課説明を求める。</p>
<p>前中課長 井上委員</p>	<p>《資料に基づき説明》 味間児童クラブについて、味間小学校の児童の半数が利用している。多くの児童が利用しているにも関わらず、指導員の数が少なく非常に負担となっている。また、非常勤のみの職場となっており、正規職員がいないことも大きな負担と感じている。 利用児童については、11月に受入募集を開始するので、とりあえず申</p>

酒井市長 前中課長	<p>込をする家庭がある。来年度も利用児童が多くなる予想をしている。この状況が続くのは、非常に危険であると考え。</p> <p>なぜ、篠山市の児童クラブ利用率は高いのか。</p> <p>利用料金が安いこと、長期休業中のみでも受け入れをしていることが考えられる。</p>
酒井委員	<p>サービスが良いことが理由であると考え。「子育ていちばん」という篠山市の方針と合致している証拠であるのではないかと考える。将来的に利用率が更に高くなることが想定されている。それに対応していく準備が必要である。</p>
酒井市長 酒井委員	<p>5、6年生は成長段階も考慮して、受け入れしないという選択は不可能か。</p> <p>家庭の状況、地域の状況に配慮すると、行政として受け入れ制限することはできないと考える。受け入れ態勢を整えることが重要である。</p>
前川教育長	<p>全ての子ども達が、児童クラブ、預かり施設で過ごすのではなく、社会教育事業や図書館でのイベント等、様々な過ごし方を選択できるような環境を整えたいと考えている。</p>
垣内委員 酒井委員	<p>過ごし方の選択肢の一つに児童館も活用できるのではないかと考える。</p> <p>児童クラブ、預かり施設の負担軽減策の一つとして、夏休み日数の削減も一つの案として検討することが良いと考える。授業時間の確保面でも有用であり、丹波市でも検討されている。さらに神戸市では既に取り入れられている。様々な案を持ち、早急な対応が必要である。</p>
井上委員	<p>夏が酷暑となっているため、エアコン設置できない学校は夏休みを長くするという話を聞いたことがある。そういった考えもあるのか。</p>
酒井委員	<p>年間事業日数は決まっているため、他の長期休業期間を短くする等が必要となってくるため、難しいと考える。</p>
酒井市長 芦田部長	<p>施設のエアコン設置は進んでいるのか。</p> <p>エアコンは、特別活動を行う教室や、特別支援教室には設置されているが、普通教室には設置できていない。</p>
井上委員	<p>市直営の児童クラブには正規職員の配置がない。より良い施設運営のためにも正規職員を配置し、有資格者の雇用や職員の資格取得に配慮した環境が必要であり、それが人材確保に繋がると考える。</p>
中筋課長	<p>幼稚園、保育園、こども園についても正規職員の配置が難しい状況であるので、児童クラブに正規職員を配置することは厳しい。</p>
酒井市長 酒井次長 垣内委員	<p>学校の教師が児童クラブで指導すれば良いのではないかと考える。</p> <p>勤務時間の関係、副業となること等から不可能である。</p> <p>行政で職員の待遇改善をしすぎると民間を圧迫する可能性がある。民間と行政が連携していくことが重要である状況下であるため、正規職員の配置、給与改善はしっかりと検討して欲しい。</p>
酒井委員	<p>職員配置の面だけでなく、施設の面でも検討が必要な時期が来ている。</p> <p>施設の老朽化が進んでいる状況であるので、施設の規模等を考慮して効率的に教育が行える環境、条件の整備が必要であると考え。</p>

酒井市長	児童クラブの利用者が増え、様々なところに影響が出ているのであれば、利用できる学年を下げるのが一番効果的ではないか。
前中課長	他の自治体はどのような対策をとっているのか。 現時点では、約2割の自治体が利用できる学年を制限している。
酒井市長	篠山市で児童クラブの利用が多くなっている原因として、「友達が利用しているから自分も利用する。」といったことが考えられる。
前中課長	児童クラブ本来の趣旨から外れているのではないか。本当に必要な利用者のみが利用すべきである。味間児童クラブ以外の児童クラブはどのような状況であるのか。
垣内委員	現時点では対応できているが、4,5歳児の預かり施設利用者を基に計算すると32年度以降は厳しい状況となる。
酒井市長	子どもの居場所をもっと作るべきである。例えば児童館である。
前中課長	担当課である前中課長の率直な意見が聞きたい。 正直な意見として、利用者の過多は事故を誘発する恐れがあるので、高学年の児童については利用を制限するべきであると考えます。
中村委員	利用料金を上げることは不可能であるのか。
酒井市長	料金を上げることは難しい。
酒井委員	利用の制限と利用料金を上げることはどちらが難しいのか。
酒井市長	利用料金を上げることは、全ての利用者に影響があるので抵抗は強いと思う。利用の制限の方が、利用者へ合理的に説明できるので利用者は理解がしやすいように思うが、今後、対応策を検討すべきである。
井上委員	申込者の全てを受け入れるのではなく、利用者の受け入れを指導員の確保状況に合わせて行ってほしい。
芦田部長	行政としてそれはできない。指導員の確保が大前提である。指導員がなぜ確保できないのかと批判を受けることが容易に想定できる。
酒井市長	施策としている以上は、指導員不足による受け入れ制限はできない。もし受け入れを制限するならば、合理的な説明が必要である。
酒井委員	篠山市全体でこども園化を進めて欲しい。全国的にも進められている流れがある。さらに、篠山市の財政面、人材面を考慮してこども園化を進めていくことが良いと考える。
前川教育長	0歳から預ける方の増加、全国的な傾向、カリキュラム、施設の効率等を考慮するとこども園化していく流れにある。
酒井委員	子ども達の成長に適した園児数がある。小規模すぎる園は今後の在り方を検討していく必要がある。
中村委員	篠山、岡野、たまみず幼稚園には保育園、預かり施設がない。地域によって差があるのは問題があると考えます。幼稚園児の保護者である職員をこども未来課に配置し、意見を吸い上げるようにすれば議論も活性化していくのではないかと。
前川教育長	篠山地区の幼稚園等の施設配置における考え方として、保護者に選択をしてもらうことを意図としている。民間のこども園が存在しているので、

酒井市長	<p>長時間教育を希望する方は民間のこども園を選択し、短時間教育を希望する方は幼稚園を選択していただこうと考えている。他地域についてはこども園が存在していないので、預かり施設を設けている。</p> <p>たきこども園を設置した背景には、施設改修とのタイミングが重なったこともある。全部の地域で新しい施設を建設し、こども園を設置することは、篠山市の財政上難しい現状にある。</p>
酒井委員	<p>篠山市の方針としてこども園化を進めることが資料に記載されているので、検討を重ねて欲しい。</p>
酒井市長 前中課長	<p>どの資料にその記載はあるのか。</p> <p>元気なささっ子愛プランの考えを継承した、篠山市子ども・子育て支援事業計画内に記載がある。策定当時は最終的に篠山市内に6園のこども園を設置する計画となっている。</p>
酒井市長	<p>学校、幼稚園や保育園は地域にとって重要な施設である。地域の理解が得られて初めて統廃合はできると考える。机上論と実状を考慮して検討が必要である。できること、できないことの精査が必要である。</p>
酒井委員	<p>精査に至るまでの論議を疎かにしてはいけない。市長は、最終的に認定こども園化についてどのように考えているのか。</p>
酒井市長	<p>適切なタイミングに地域住民と協議を重ねた上で実施するつもりである。</p>
芦田部長	<p>具体的な例として、今田幼稚園、保育園共に危険な箇所建てられているので、こども園化し、新園舎を建築する事は良い案であるとする。さらに城東保育園、かやのみ幼稚園も比較的近くに建設されているので、どちらも老朽化し、大規模改修が必要となれば、こども園化し、新園舎を建築することは検討の余地があるとする。</p> <p>課題があるのは、範囲が広い西紀地区、民間がすでにある篠山地区である。検討と協議を重ねていきたい。</p>
酒井委員	<p>行政がすぐに実施しようとしても3年程度の時間がかかる。今すぐにも検討、実施に向けた取り組みをして欲しい。</p>
酒井市長	<p>市長に就任後学校統廃合に取り組んできたが、住民からの要望に応えたものであった。他の地域でも統廃合を望む声が大きくなれば、応えたいと考えている。地域に応じた教育環境を整えていくつもりである。</p>
井上委員	<p>味間こども園が新設されたとき、移住者等が増えたと思う。たきこども園も同様に移住者が増えることが予想される。こども園化することでメリットが発生するのであれば、他地域でもこども園化を検討して欲しい。</p>
酒井市長	<p>公共の施設を統廃合することは、地域にとって大きな出来事である。地域の住民の声、意見を尊重しながら検討を進めていきたい。</p> <p>それでは、平成30年度第1回総合教育会議を終了とする。</p>